

令和8年度一般選抜（C日程）における小論文出題意図及び解答例

国際経済学部

1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

国際経済学部では、アドミッション・ポリシーで大学入学までに身に付けておくことが望ましい知識・能力・態度として挙げた高等学校における学力の三要素、「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して学力評価を行うこととしている。小論文試験は、このうち主に「思考力、判断力、表現力」として、経済社会のさまざまな動きや変化に対する探究心を有し、自らの考えを論理的に表現し、わかりやすく伝えることができることを評価することを目的としている。

2. 試験問題の内容および意図について

（内容）

本試験で提示される問題文は、坂本貴志（2024）『ほんとうの日本経済』の一部で、非正規雇用問題に焦点を当てている。非正規雇用は、1990年代後半から2000年代にかけて不本意な就業として問題視された。しかし、現在では、柔軟な働き方など非正規のメリットに注目した選択が増加している。賃金上昇率も非正規雇用が正規雇用を上回るなど、非正規雇用は新しい働き方としてそのポジションを確立しつつあると論じられている。

（意図）

問1では、表のデータ及び文章を読み取り考察するといった経済学を学ぶのに必要な基礎的な能力を問うている。

1) (a) 2.2倍 (b) 2.1倍 (c) 1.9倍

問2では、表及び文章から読み取れる社会変化とそれが日本にもたらす意味を思考することができるかを問うている。